

令和4年度博物館事業評価

戦略指標1 資料収集と保管・活用

資料5

・地域を特徴づける資料収集と保管 ・資料データ化と収蔵資料の充実 ・地域の文化を地域で保管活用

定量的評価

No.	内容	単位	R4 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	考え方・基準	変更の理由
1	新規受入資料件数	件	20	38	27		当該年度の受入件数	
2	収蔵資料台帳のデジタル化件数(累計)	件	83,737 →85,600	82,737	85,555		年度末におけるデジタル台帳の登録件数 (中期目標:R7年度100,000件)	令和4・5年度は、本館資料の整理を優先し、外部収蔵施設の台帳のデジタル化事業を中断するため、目標値を低めの設定とする。
3	新規受入資料の展示公開率	%	70→50	-	31		当該年度とその前年度の受入資料件数のうち、展示公開した件数の比率	初設定した評価項目で、目標値設定が実情と離れていたため、適正な値に見直しする。
4	収蔵品オンライン検索システム「ある蔵」における公開件数(累計)	件	12,000 →12,125	11,971	11,992		年度末時点における「ある蔵」での公開件数 (中期目標:R7年度12,500件)	中期目標に向けて数値を設定。
5	【新規】館内収蔵庫の点検・清掃回数	件	12	-	12		温湿度等環境の点検及び庫内清掃の回数	
6	資料事故発生件数	件	0	0	6		資料の紛失、破損、汚損等の件数	

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R2	R3	R4	判断基準	変更の理由
1	計画的な資料収集が行われている。		-	A		・資料収集方針・資料購入基準に基づいている。	
			-	B		・現状の収蔵環境を踏まえながら、収集検討会議により受入を決定している。	
			-	B		・資料購入評価会の構成員をあらかじめ想定し、すぐに対応できるようにしている。	

2	資料の保管が確実になされ、良好な状態に保たれている。	-	B	・資料管理のフローチャートが運用されている。
		-	B	・収蔵庫の鍵の管理や機械警備の運用が厳格に行われている。
		-	D	・資料の収蔵場所を明確にするとともに、その場所への収蔵が確実に行われている。
		-	C	・全ての収蔵施設におけるデジタル台帳作成が計画的に行われている。
		-	C	・収蔵庫の温湿度計測を常に行い、必要な措置を講じている。
3	全ての収蔵施設が計画的に運用されている。	-	C	・全ての収蔵施設について毎年現地点検を行い、必要な措置を講じている。
		-	D	・全ての収蔵施設の資料を把握し、将来的な再配置の方針が検討されている。
4	収蔵資料の活用と見直しが図られている。	-	B	・デジタルデータの公開活用が推進されている。
		-	C	・未整理資料や再整理を要する資料の活用に向けた確認・整理作業が推進されている。
		-	A	・他館への資料貸出や画像提供、資料熟覧への対応が適切に行われている。

自己評価

分析・課題	
今後の方策	

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	定性No.4	意見・評価
見直し(要or不要)					
評価(A~D)					

戦略指標2 調査研究

・学芸員の質の向上 ・地域の研究機関との共同研究 ・地域資料の掘り起こし

定量的評価

No.	内容	単位	R4 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	考え方・基準	変更の理由
1	【新規】学芸員が講演・講座等の講師を務めた件数(外部での実施を含む)	件	15	-	12		当館学芸員による講師件数。ギャラリートーク、学校対応、展示ガイドは含めない。出前講座は含む。連続講座は1回。	
2	【新規】学芸員の学術的著述本数(外部での掲載を含む)	本	3	-	3		館報・図録・報告書や、外部研究誌等へ記名の著述掲載本数。連載は1本。1人1本目標。	
3	【新規】学芸員が調査に出向いた件数	件	15→20	-	24		外部での資料調査、熟覧、視察など。同一調査に複数回でも1件。	実績を踏まえて目標値を見直しする。
4	【修正】他機関と連携した調査研究の件数	件	6	-	6		大学、機関、研究者等との調査研究連携件数。イベント等のみは含まない	

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R2	R3	R4	判断基準	変更の理由
1	市役所の組織の中で、博物館が調査研究施設として位置づけられている。		-	C		・調査研究とその他業務における適切な業務量のバランス配分と役割分担がされている	
2	調査研究の環境が保たれている。		-	D		・調査研究に必要なスペースが確保され、機材が適切に配備されている	
			-	C		・調査研究スペースにおいて整理・整頓が日常的に行われている。	
			-	B		・調査、視察、研修、有識者指導など学芸員の資質向上に必要な予算が確保されている	

3	博物館が市民や外部の組織などから調査研究施設として位置付けられている。	-	C	・設定されたテーマに基づいた調査研究が計画的に行われ、講座等で市民に還元している。
		-	B	・学芸員が外部機関との共同研究に参画している

自己評価

分析・課題	
今後の方策	

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	意見・評価
見直し(要or不要)				
評価(A~D)				

戦略指標3 展示・教育普及活動

・浜松市と関連のある展示の企画 ・学校や地域と連携した講座やイベントの開催

定量的評価

No.	内容	単位	R4 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	考え方・基準	変更の理由
1	年間観覧者数(本館)	人	43,000→ 35,000	24,032	29,311		本館合計(アウトリーチを除く)	実績を踏まえて見直しする。
2	年間観覧者数(分館合計)	人	28,000→ 25,000	18,108	21,762		5館合計	実績を踏まえて見直しする。
3	企画展開催件数	件	6	8	7		特別展、テーマ展、小展示が対象(スポット展示や外部での展示は含めない)	
4	【新規】企画展の満足度	点	7.5	-	7.5		アンケートでの採点(0~10点)の平均値。展示毎に算出し、その平均値とする。	
5	【修正】分館における企画展開催件数	件	12	13	18		本館巡回展や企画展のほか、分館の所管部署や指定管理者主体の展示も含む。	
6	【新規】講座開催件数	件	20→10	-	9		館主催の講演会・講座の回数。ギャラリートーク、出前講座は含まず。連続講座は1回。	ギャラリートーク、出前講座を含めた修正前の目標値だったため、実績を踏まえて見直しする。
7	【新規】体験事業満足度	%	95	-	99		アンケートでの4段階評価(良・やや良・やや悪・悪)の良・やや良の割合。事業毎に算出し、その平均値とする。	
8	学校移動博物館(職員派遣型)開催件数	件	6	8	10		学校へ博物館職員が出向く形での展示・体験学習の実施件数。	
9	教材貸出件数	件	100	101	99		学校等への教材用資料や体験学習用具の貸出件数。	
10	各種研修生の延べ受入人数	人	300→100	145	77		博物館実習、インターン、職場体験、教職員研修などの延べ人数。※R3は新型コロナウイルスにより、インターンは中止。	実情を踏まえて見直しする。
11	【新規】常設展内の資料更新回数	件	4	-	2		常設展の部分的な展示更新の回数(期間限定の逸品展示を含む)。	
12	【新規】レファレンス対応件数	件	40	-	31		来館、メール、電話等による件数合計。	

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R2	R3	R4	判断基準	変更の理由
1	本館は、市内の歴史文化について正確でわかりやすい解説が行われており、市内外の人びとが浜松市を理解し、知的好奇心を満たすことができる場である。		-	D		・常設展の魅力向上に取り組むとともに、UD化を進めている。	
				B		・計画的な企画展の開催により、収蔵資料を効果的に公開している。	
				B		・展示や教育普及事業において、デジタル技術を活かした効果的な事業展開を行っている。	
				B		・速報展など時節や市民ニーズに即応した柔軟な事業展開を行っている	

2	分館は、各地域の歴史文化について正確でわかりやすい解説が行われており、知的好奇心を満たすことができる場である。		-	B	・各地域の特色を生かした常設展示が行われている。
				B	・各分館の地域の人々や担当者の意見や要望が、企画展示等の事業に反映されている。
3	【内容変更】学校の学習内容に即した見学・体験のプログラムを行うとともに、授業を支援する教材を提供している。		-	A	・主に小学校3年生と6年生の学習内容に合わせた見学・体験プログラムが構成されている。
				A	・学校のニーズ等を把握し、見学・体験プログラムの改善に努めている。
				C	・デジタル技術を用いたオンライン上での学習支援を進めている。
4	【新規】市民に学びの場を提供している。		-	C	・来館者が理解を深められるような効果的な講座や展示解説等を開催している。
				B	・レファレンスには丁寧に対応し、適切な説明を行っている。
5	浜松の歴史や文化を題材とした体験事業を行っている。		-	A	・展示や講座等と関連付けた体験学習事業の開催により学習の相乗効果が高められている。
				B	・幅広い層が学びながら楽しめる体験学習プログラムを開発している。

自己評価

分析・課題	
今後の方策	

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	定性No.4	定性No.5	意見・評価
見直し(要or不要)						
評価(A~D)						

戦略指標4 市民協働

・地域を特徴づける資料収集と保管 ・資料データ化と収蔵資料の充実 ・地域の文化を地域で保管活用

定量的評価

No.	内容	単位	R4 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	考え方・基準	変更の理由
1	地域団体等と連携した事業の実施件数	件	3	1	4		自治会や市民団体等との連携による館内・蛸塚公園・伊場公園を利用したイベントなど(連続するものは1件)	
2	【新規】市民参加型事業の開催件数	件	2	-	2		共同調査、意見聴取型WS、協業などの件数	
3	逸品陳列開催件数	件	5→3	0	1		外部の店舗や施設から依頼を受けて出張展示を行った件数	実績に応じて見直しする。
4	出前講座等開催件数	件	10	1	8		依頼を受けて講座に出向いた件数	
5	他団体共催事業件数	件	5	7	6		展示、講座、イベント等で調査研究は含まない	
6	ボランティア参加延べ人数	人	1,000→500	492	442		ボランティアの延べ活動人数(研修除く)	実績に応じて見直しする。
7	ボランティア養成事業開催回数	回	6	6	8		講座、報告会、実習等の資質向上に関する事業の開催回数	

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R2	R3	R4	判断基準	変更の理由
1	博物館の事業運営をボランティアなど市民協働で推進している。		-	B		ボランティアの募集・育成・活動の拡充を進めている	
				B		ボランティアにインセンティブ(講座等事業の優先利用や個別サービス等)や企画提案の場を用意するなど意欲向上の取り組みを進めている	
				B		シティプロモーションを意識した事業展開を進めている。	
2	(内容変更)博物館の事業が、新たな文化創造や社会の課題解決に寄与している。		-	B		市民団体等の活動に対する支援を行っている。	
				C		社会の課題解決に向けた事業展開を図っている。	

3	地域との連携が良好な関係性のもとで行われている。		-	B	市民団体等に博物館や遺跡でのユニークメニューでの活用を促進している。	
				B	地域との連絡・調整体制が築かれている。	
4	各分館が地域の特色を示すとともに課題解決の場となっている。		-	B	分館の事業に対する感想や要望を把握し、課題の改善に努めている。	
				B	分館担当者や指定管理者との定期的な連絡・調整の場を設定している。	

自己評価

分析・課題	
今後の方策	

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	定性No.4	意見・評価
見直し(要or不要)					
評価(A~D)					

戦略指標5 情報の発信と公開

・SNSによる情報発信 ・多言語対応ガイドシステム導入 ・観光訪問者への情報提供

定量的評価

No.	内容	単位	R4 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	考え方・基準	変更の理由
1	SNS更新回数→フォロワー数	回 → 人	200→ 1,900	379	215		ツイッター、インスタグラムの更新回年度末におけるフォロワー数。	年度内の更新回数は自動カウントできず、集計が煩雑なので、フォロワー数に変更する。 (9/7時点でTwitter704、インスタ1,096=1,800)
2	【新規】HPアクセス数	件	200,000→ 80,000	-	75,501		博物館HPのトップページアクセス数。広聴広報課で把握。	実情に応じて見直しする。
3	【新規】アップした動画の平均再生回数	回	500	-	642		年度内にアップした動画の年度末時点の再生回数の平均値	
4	報道取り上げ回数	回	200→ 100	151	84		新聞・ラジオ・TV・雑誌等の取り上げ回数	R3にラジオの定期出演を取りやめ、情報提供先を厳選したことから、実情に応じて見直しする。
5	刊行物発行部数 →【項目削除】	部	17,000	-	12,900		館で発行する刊行物の部数(ポスター、チラシ、パンフ、カレンダーは含まない)	No.2・3で集約できること及びデジタルスマートシティを推進していることから項目を削除する。

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R2	R3	R4	判断基準	変更の理由
1	効果的な情報発信の手段や方法が選択されている。		-	B		<ul style="list-style-type: none"> 過去の実績やアンケート等に基づき、事業の規模や対象に合った情報発信手段(広報誌、ポスター・チラシ、広告、HP、SNS等)を適切に選択している。 収蔵品検索システム「ある蔵」の、内容の充実と見やすさの改善に努めている。 積極的な報道発表を行い、報道機関を通じた情報発信に努めている。 	
2	市内外の幅広い層に向けて博物館の周知を行っている。		-	C		<ul style="list-style-type: none"> 展示解説やパンフレットなど多言語化への対応を進めている 観光施設や宿泊施設等との連携を深め、博物館の広域的な周知に努めている。 地域の魅力を紹介することで、地域に対する関心を高めることができたか。 	

3	博物館の多様な所蔵資料や活動内容についての情報を発信している。		-	B	・刊行物(博物館報、博物館だより、博物館情報等)が計画通り発行されている。	
					・HP等における事業の動画や資料、収蔵品の情報などにインターネットを活用した来館できない人向けの情報提供に努めている。	
					・SNSでは事業の開催周知だけでなく、日々の活動状況も公開することで、博物館事業への理解が深められるように努めている。	

自己評価

分析・課題	
今後の方策	

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	評価・意見
見直し(要or不要)				
評価(A~D)				